

<白金標準、WPIC、2025 年も 22 トンの供給不足予想・・・>



(出所：オアシス)

WPIC 第 3 四半期 PGM 需給報告では、2025 年の需給バランスは前回の 26 トンから 4 トン改善される 22 トンの供給不足を示唆し、3 年連続の供給不足が確実的になっている。また 2026 年の初回の需給予測では、0.6 トンの供給過剰を示唆している。ただ過剰予想は貿易摩擦の緩和を想定したものであり、現在の緊張が続く場合は、2026 年もプラチナの供給が需要に追いつかない可能性が高いと記載し、緩和が崩れた場合は 9 トンの供給不足へ移行する可能性が示されている。特に地上在庫が 2025 年の 99 トンから 2026 年は 100 トンとなるなど、価格に大きなインパクトを与える増加も見られないことから、2026 年も供給不足は継続する可能性が高いと思われます。

特に白金標準先物の週足では、5 波動を示すエリオット波動論で 8250 円の高値が 3 波動を終え、現在は 4 波動の修正 & 保合いの動きを形成している状況であり、今後目先の 7660 円を上回った場合に、最後の上昇波動である 5 波動へ移行し、目先の高値である 8250 円を上回る可能性が高まると思える。その意味合いからも、強気スタンスは維持しながら 2026 年 1 月～3 月に掛けてアニバーサリーの動きで 8250 円超えに備えるのが妥当に思える。

<テクニカル>

白金標準先物の週足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では **MACD** が下げながら、シグナルは切り下げだし、RCI では **短期** が下げながら、**長期** は切り下げている。特に週足が指数平滑移動平均線のレンジに入り、抵抗を強めるのか見極めの動きに思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,810,000 円(2025 年 11 月 25 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 102,960 円(2025 年 11 月 25 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>